

平成 15 年度

標準化活動報告書

抜粋版

抜粋版

平成 16 年 4 月

(社) ビジネス機械・情報システム産業協会

標準化センター

■目次

1. 標準化センター	1
1.1 はじめに	1
1.2 標準化センター関係委員一覧	2
1.3 標準化センター幹事会	8
1.4 JBMS 推進小委員会	8
1.5 UI デザインプロジェクト	9
1.6 アクセシビリティプロジェクト	11
1.7 カラーマネジメントプロジェクト	12
1.8 JIS 原案作成委員会	14
2. 部会及び委員会の標準化活動	16
2.1 複写機・複合機部会	16
2.2 ページプリンタ部会	18
2.3 カード及びカードシステム部会	18
2.4 データプロジェクタ部会	19
2.5 デジタル印刷機部会	19
2.6 環境委員会	19
3. 標準化の新規分野及び課題	20

1. 標準化センター

1.1 はじめに

(社) ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA) 標準化センターとして、3回目の活動報告書をここに発行する。

昨年度に引続き今年度も積極的に標準化活動を展開し、標準化センターの各プロジェクト・小委員会及び部会などで、次の事例で示すような着実な成果を上げた。

- J BMS 及び T R をホームページから無料でダウンロード可能にすることによって、標準化成果物の展開を容易にした。
- JBMIA 標準化戦略遂行のために、「標準化の新規分野及び課題」を検討し、纏め上げた。
- ISO TC42/WG5/TG3 新課題（画像の保存性）対応のために、カラーマネジメントプロジェクトの下に JBMIA 画像保存性 WG を設立し、新たに写真感光材料工業会との連携活動を行った。

また、今回は、標準化センターの各委員名簿の掲載を復活した。

本報告書が、今後、標準化活動を進める上での資料としてお役に立てば幸いである。

1.3 標準化センター幹事会

(1) 活動概況及び活動成果

平成 14 年度に見直した **JB Mia** 標準化戦略（平成 14 年度版）を実行に結びつけることを念頭に置き、「標準化の新規分野及び課題について」を検討し、12 月の標準化会議で報告した。

内容は、この報告書の末尾に添付したが、次の主項目で纏めてある。

- ① 標準化課題を取り巻く環境
- ② 標準化の課題
- ③ 優先順位の設定
- ④ 今後の活動と課題

1.4 JBMS 推進小委員会

(1) 活動概況

- ① **JBMS** 原案のエディット
 - ・各部会で作成した **JBMS** の改正原案の様式審議および修正意見を具申。
- ② **JB Mia-TR-1**（**JBMS** 簡易作成マニュアル）の普及促進
 - ・マニュアル内容を審議、検討し、使いやすいものへ（詳細説明追加、図解事例等の記載等）改訂を行った。
 - ・上記マニュアルを標準化センター幹事会等で紹介、活用の展開・促進を要請。

1.5 UI デザインプロジェクト

(1) 活動概況

- ・今後の標準化テーマの探索
先行的な UI の標準化の模索から、本来のユーザビリティ向上を趣旨とした **MFP**・**PC** 操作の範囲における各社の現状把握が必要と判断し、各社情報を収集し、各項目ごとに一覧表を制作した。
- ・**TR-2 UI** 用語ガイドライン改訂
MFP 用語（コピー機能・プリンタ機能）標準化作業を行い、UI 用語ガイドラインの改訂を行った。
標準化作業の中で評価が必要と判断した用語に対して、外部委託による用語評価を行った。
- ・新規図記号提案
各社より標準化希望の図記号を聴取し優先度を検討の上、各社担当で新規アイデア

の創出と審議を推進し、まとめ一覧表を作成した。次年度評価を行い、TR化及びJIS化を予定。

1.6 アクセシビリティプロジェクト

(1) 活動概況

- ① 事務機械の業界指針「高齢者障害者等配慮設計指針－複写機・複合機及びページプリンタ」JBMS-73を検討した。
- ② INSTAC情報バリアフリー委員会WG1に参加し、「高齢者・障害者等配慮設計指針-情報機器・サービス」第1部：共通指針JIS原案を完成させた。
 - ・共通指針の策定で、事務機業界のリハ法508条の対策で得られた経験と実績が反映されたことで、事務機業界は主体的な対応を可能にする独自の規定をもつことが可能となった。
- ③ 標準化WGでは、事務機器における車いすを用いた場合の機器操作範囲を、リハ法508条の米国人基準に対する日本人を対象とした基準の算出方法と推奨値を求める検証活動を行った。

1.7 カラーマネジメントプロジェクト

(1) 活動概況

- ① カラープリンタのカラーマネジメントに対するユーザーの要求に答えるため、各社プリンタを混在して使用している一般オフィスにおいて、各社のプリンタ間における色の見えの違いに対する具体的な改善手段〔業界標準色再現モード（仮称）〕の検討を次期スコープとして確定し、活動を開始した。
- ② 画像保存性に関する国際規格作成活動（ISO TC42/WG5/TG3）に対し、写真感光材料工業会およびJEITAとの連携を図っている。
- ③ 先に発行されたrgbプリンタの入出力特性把握方法（IEC 61966-7-1）の定期改定（2004年5月）に合わせ、国内外の意見の調整を開始している。
- ④ カラーマネジメント活動の強化・効率化を目的に、カラーマネジメントプロジェクトとSC28/WG6の連携を図ると共に、CIE、ICC、JEITA、CIPA、IEC等の外部団体と協働作業を含めた活動を積極的に推進した。また、カラープリンタのカラーマネジメントに対する国内外の団体との活動・連携を円滑に進めるため、積極的に活動内容を学会で発表し、また、雑誌に投稿している。（国内発表2件）

1.8 JIS原案作成委員会

(1) 活動概況

- ① 平成 15 年度に二つの JIS 原案作成委員会を発足させて、次の 5 件の JIS 原案を作成し、3 月末に財団法人日本規格協会へ提出した。
 - 1) JIS X 6301 識別カードー物理的特性：改正
 - ・ ISO/IEC 7810 の改正に伴う改正。
 - 2) JIS X 6302-1 識別カードー記録技術ー第 1 部：エンボス：制定
 - ・ ISO/IEC 7811 のパート制導入による ISO/IEC 7811-1 の JIS 化。
 - 3) JIS X 6302-2 識別カードー記録技術ー第 2 部：磁気ストライプー低保磁力：制定
 - ・ ISO/IEC 7811 のパート制導入による ISO/IEC 7811-2 の JIS 化。
 - 4) JIS X 6302-6 識別カードー記録技術ー第 6 部：磁気ストライプー高保磁力：制定
 - ・ ISO/IEC 7811 のパート制導入による ISO/IEC 7811-6 の JIS 化。
 - 5) JIS X 6936 事務機器ー化学物質放散速度測定方法
 - ・ BAM の基準書を元にして作成した JIS 原案。
- ② 次の 2 件の JIS 原案が、平成 16 年 2 月 23 日の JISC 情報技術専門委員会で審議され、平成 16 年 4 月 20 日に JIS X 6910 が、5 月 20 日に JIS B 9527 が公示される予定である。
 - 1) JIS X 6910 事務機器ー複写機・複合機の仕様書様式及びその関連試験方法：制定
 - ・ 国際規格にすべく Fast Track 提案を行うことになっている。
 - 2) JIS B 9527 事務機器ーページプリンタの仕様書様式(対応国際規格 ISO/IEC 11160-2)：改正
 - ・ 時期を見て、JIS B 9527 を元にして、国際規格改正の提案を行う予定。